

# 園芸情報

営農部園芸畜産課  
片岡 新



「緑肥作物」の有効活用で  
品質の良い野菜を育てましょう！



土壌改善!!



雑草抑制!!

◆緑肥とは・・・

栽培した植物を腐らせずに畑などの土壌に入れて耕し、肥料にすることです。そのために栽培する植物のことを「緑肥作物」と呼びます。堆肥のように運搬することなく、手軽に有機物を供給することができるほか、さまざまな利用効果があります。吸肥力の高い野菜や栽培期間の長い野菜に導入することにより、肥料を減らすことができ、コスト削減につながります。

◆緑肥作物の効果

1. 物理性の改善
  - ・土壌の団粒構造の形成・透水性の改善
2. 化学性の改善
  - ・保肥力の増大・空中窒素の固定
3. 生物性の改善
  - ・土壌微生物の多様性の改善・有害害虫の抑制（ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウなど）
4. 環境保全
  - ・景観美化・雑草の発芽抑制・表土飛出防止

◆緑肥の使い方

播種

手播きや播種機を用いて行います。播種後は、発芽や初期生育を安定させるために、覆土と鎮圧を行ってください。一般に覆土の厚さは種子の3〜5倍といわれており、種子の大きさによって覆土の厚さを変える必要があります。比較的大きな種子は、3〜5 cm程度、小粒の種子では、軽かき混ぜる程度の深さが目安です。

緑肥作物のすき込み方法

トラクターのロータリーですき込む方法が一般的です。草丈が高い植物の場合は、フレールモアなどできるだけ細かくしてからすき込むことをお勧めします。また、緑肥の分解を促すためにすき込み後、2回ほどロータリーがけを行うと、きれいな播種床を作ることができます。

★すき込みのポイント

ローラーで踏み倒すか、トラクター前方部分に棒などを付けて走り、緑肥作物を押し倒した状態にします。その倒れた方向と逆方向（下図参照）からロータリーをかけるとすき込み易くなります。



積雪地帯での秋播きがおすすめ!!

「ヘアリーベッチ(寒太郎®)」

種まき適期10月から11月

5月中下旬に定植するトマト、ナス、ピーマンなどの夏野菜に利用できます。発芽を抑える働きがあるので、後作にはニンジンやダイコンなど、直まきする野菜の栽培は不向きです。



茎葉には、シアナミドと呼ばれる雑草を抑える成分が含まれています。シアナミドは石灰チツソが分解される時に生成される物質と同じで、多くの植物の発芽を抑制するため、雑草防止効果があります。※緑肥にはさまざまな品種があり、効用も異なるため、土壌環境や畑の状況に合わせて選定する必要があります。

